雪と村

こどもの

かな

ふるさと散歩

「三十一音と子どもと」

講師　山川ひろみ氏

日　時　令和4年9月3日午後2時より

会　場　上山市立図書館視聴覚室

「三十一音と子どもと」

子ども達（小中学校）との短歌学習を通して

令和四年九月三日

山形県歌人クラブ　山川ひろみ

(1) 三十一音に込める意義

① 上山市での短歌学習の始まり

・上山市教育委員会では、「ふるさと上山を愛する子どもの育成」の一環として、上山出身の歌人斎藤茂吉にちなみ、短歌を通してふるさとを愛する心と豊かな感性を育むことを目標として、平成十三年から歌の学習を推進した。

・平成十五年に上山市を会場に「国民文化祭・短歌大会」が開催された。

・それから今日まで、市小中総合文化祭短歌の部の作品発表や、「茂吉のふるさと短歌教室」などをはじめ、日々の短歌作り、斎藤茂吉の総合学習、短歌卒業式など、継続的な取り組みが定着している。

② 短歌作りを通して（希望的観測として）

※短歌を作ると学力が付くの？の質問を受けて

○言葉、人、自然との関わりなど、様々な事象に心が動く。

○関心があること、自分にとって大切なことなど、自分を見つめ、自分の心との対話ができる。

○三十一音に自分の想いを込めようと、言葉選びをする中で語彙が増えていく。

・五音、七音の言葉のリズムが自然に身につく。

・自分の感情を置き換える言葉を探そうとする。

・自分の思いを三十一音に凝縮させることができる。

●数ある自己表現の手段の一つとして知る。

・千三百年以上続く日本古来の短い詩形の歴史に触れる。

●何を歌材にしようかと考えることにより、自分の生活や取りまく状況に関心を持ち、豊かな気づきが生まれる。
（感受性・感性）

・上山の自然や四季の変化に心を止める。
・家族、家の出来事や仕事に心を止める。
・学校生活での体験や友人との関わりに心が動く。
・関心のあることを観察しようとする。

●心に埋もれていること(見えていなかったこと)が、表現することにより掘り起こされる。

◎小中学校時代での短歌作りの経験が、将来、自分の想いを三十一音に込めたくなる時が来るのではないか。

⑵ 現在の国語教科書の短歌学習について（光村図書）

① 小学校（◆印　俳句）

◇三年上「俳句を楽しもう」（声に出して楽しもう）

※五音と七音の意識・俳句の決まりを知り、言葉の調子や響きに親しむ。

◆古池や蛙飛びこむ水の音　松尾　芭蕉

◆閑かさや岩にしみ入る蝉の声　松尾　芭蕉

◆春の海終日のたりのたりかな　与謝　蕪村

◆菜の花や月は東に日は西に　与謝　蕪村

◆雪とけて村いっぱいのこどもかな　小林　一茶

◆夏山や一足づつに海見ゆる　小林　一茶

◇三年下「短歌を楽しもう」（声に出して楽しもう）

※三十一音で作られた短い詩・短歌の決まりを知り、言葉の調子や響きに親しむ。

・むしのねも　のこりすくなに　なりにけり
よなよなかぜの　さむくしなれば　　良　寛

・秋来ぬと目にはさやかに見えねども
風の音にぞおどろかれぬる　　藤原　敏行

・奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の
声聞く時ぞ秋は悲しき　　猿丸　大夫

・天の原振りさけ見れば春日なる
三笠の山に出でし月かも　　安倍　仲麿

◇四年上「短歌・俳句に親しもう（一）」

※近世以前の俳句・短歌を音読し、言葉の調子や響きに親しむ。

・石走る垂水の上のさわらびの
萌え出づる春になりにけるかも　志貴　皇子

・君がため春の野に出でて若菜摘む
我が衣手に雪は降りつつ　光孝　天皇

・見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける　素性　法師

◆明月や池をめぐりて夜もすがら　松尾　芭蕉

◆夏河を越すうれしさよ手に草履　与謝　蕪村

◆雀の子そこのけそこのけ御馬が通る　小林　一茶

◇四年下「短歌・俳句に親しもう（二）」

・晴れし空仰げばいつも
口笛を吹きたくなりて
吹きてあそびき

石川　啄木

・金色のちひ（い）さき鳥のかたちして
銀杏ちるなり夕日の岡に

与謝野晶子

・ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

佐佐木信綱

◆柿くへ（え）ば鐘がなるなり法隆寺

正岡　子規

◆桐一葉日当たりながら落ちにけり

高浜　虚子

◆外にも出よ触るるばかりに春の月

中村　汀女

◇五年「日常を十七音で」（言葉をよりすぐって俳句を作ろう）省略

◇六年「たのしみは」（言葉を選んで、短歌を作る。）

※江戸時代の歌人橘曙覧の「たのしみは」～「時」を習って作る。

・たのしみは妻子むつまじくうちつどひ（い）
頭ならべて物をくふ（う）時　　橘　曙覧

・たのしみは朝おきいでて昨日まで
無かりし花の咲ける見る時

②中学校

◇一年「百人一首を味わう」二十二首掲載　省略

◇二年 言葉と向き合う

「短歌に親しむ」　栗木京子（解説文中の短歌）

・くれなゐ（い）の二尺伸びたる薔薇の芽の
針やは（わ）らかに春雨のふる　正岡　子規

・夏のかぜ山よりきたり三百の秋の若馬耳ふかれけり　与謝野晶子

・死に近き母に添寝のしんしんと
遠田のかは（わ）づ（ず）天に聞ゆる　斎藤　茂吉

・鯨の世紀恐竜の世紀いづ（ず）れにも戻れぬ
地球の水仙の白　馬場あき子

・蛇行する川には蛇行の理由あり
急げばいいってもんじゃないよと　俵　万智

「短歌を味わう」

・白鳥はかなしからずや空の青
海のあを(お)にも染まずただよふ(う)　若山　牧水

・不来方のお城の草に寝ころびて
空に吸は(わ)れし
十五の心　石川　啄木

・のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ
「まっすぐ?」、そうだ、どんどんのぼれ　佐佐木幸綱

・ぽぽぽぽと秋の雲浮き子供らは
どこか遠くへ遊びに行けり　河野　裕子

・観覧車回れよ回れ想ひ(い)出は
君には一日我には一生　栗木　京子

・ゼラチンの菓子をすくえばいま満ちる
雨の匂いに包まれてひとり　穂村　弘

◇三年「俳句の可能性」宇田喜代子「俳句を味わう」省略

（3）上山の子どもの短歌より

※小中学校総合文化祭、県ジュニアコンクール、各学校の作品などから

①
おはなみで
しょうゆだんごを
たべました
さくらのあめが
ふってきました
小一

②
ぷうるにね
はじめてはいって
うれしいよ
もぐりっこして
あしがみえたよ
小一

③
なつ休み
あさがおいつも
見ていたよ
なにいろさくかな
なんこさくかな
小一

④
ばあちゃんと
あやとりをした
とちゅうから
やってもとっても
また川になる
小二

⑤
おかあさんの
大きなおなかを
ぽこぽこと
けってる赤ちゃん
いつねるのかな
小二

⑥
もちつくと
モコモコクニャクニャ
うごいてる
白いうさぎが
ねぼけてるみたい
小二

⑦
ヒメサユリ
ピンクの中に
黄色い子
お母さんにも
見せたい花だ
小三

⑧
参観日
すぐに行っちゃう
お父さん
もっと見て見て
わたしのところ
小三

⑨
妹が
せみをつかまえ
にがさない
そっとにがそう
おこられるかな
小三

⑩
百メートル
やっぱりぬかせぬ
大悟くん
一秒の差
かなり大きい
小四

⑪
赤とんぼ
赤い夕日に
照らされて
ゆうびんマークが
とんでるみたい
小四

⑫
雪がふり
畑も家も
まっ白だ
冬のにおいが
ツーンとする
小四

⑬
夜八時
八まん様の
笛練習
なかなか吹けない
ピーヒャラの音
小五

⑭
スカイツリー
空に向かって
立っている
あんまり高くて
首九十度
小五

⑮
りおの手が
ぼくのかみの毛
ひっぱった
一才の力
とっても強い
小五

⑯
ほっぺたが
赤くなってる
一年生
「ぎゅっ」とにぎる
私の右手
小六

⑰
しろかきを
終えた田んぼに
きらきらと
緑の苗が
行列作る
小六

⑱
一匹の
群れからはなれた
アメンボウ
おまえもだれかと
けんかしたのか
小六

⑲
七時五分
元気な産声
こだまして
今日から我が家は
七人家族
中一

⑳
バレーボール
先輩まねして
打ってみる
なかなか飛べない
ヒナ鳥みたい
中一

㉑
けんかして
口をきかない
妹の
机にそっと
お菓子をのせる
中一

㉒
先輩の
歌声広がる
体育館
まるで音符が
見えてきそうだ
中二

㉓
五か月も
先の旅行の
話して
盛り上がってる
テスト前日
中二

㉔
「世の中は
そんなに甘く
ないのよ」と
言う母の横で
観るドラえもん
中二

㉕
ギュッと締まる
綱きしむ音
耳に鳴る
踵に力
天を仰いで
中三

㉖
帰り道
藍色
西朱色
鼻をくすぐる
秋刀魚の香り
中三

㉗
小雪の
寒気が居間を
支配して
一人の僕と
ペン走る音
中三

（4）独自性、感性をほりおこす

※子供の作品に質問をすれば・・・。今年度の短歌教室から

■は質問（上の句と下の句の間、一字空けてます）

《小学三年生》

①たん生日おすし食べたよおいしいな　ケーキも食べためちゃうまかった

■どんなお寿司？　どんなケーキ？　（助詞も入れる）

⇦

たん生日におすしを食べたにぎりずし　ケーキも食べたチョコがおいしい

②チューリップめがでてうれしいはちがきた　3月にさいた4月にかれた

■どんな芽？　蜂が飛んで来たところを教えて？（場面を絞って）

⇦

チューリップのめがでてきたよみどりのめ　はちが一ぴきぶんぶんとんだ

③れんきゅうにいとこがきたよ二年ぶり※たのしかったなまた来てほしい

■何をして楽しかったの？※印のパターンで下の句が終わることが多い。

⇦

れんきゅうにいとこがきたよ二年ぶり　かくれんぼしたすぐ見つけたよ

④地図作り家から学校たいへんだ　ようやくかんせいまよわないですむ

■何が大変だったの？

⇦

地図作り家から学校までの道　ぐねぐねしている道路いっぱい

⑤わり算でむずかしいけどおぼえるぞ　いっぱい知って力をつける

■どんなことが難しいの？

⇦

わり算は何回やってもむずかしい 答えのよそうがすぐうかばない

《小学五年生》

⑥春の海魚いっぱい海鮮丼　顔はニコニコ海もニコニコ

■どんな海鮮丼だったの？　ぱっと見た感じは？

⇦

春の海の魚いっぱい海鮮丼　サーモンの色あざやかだった

⑦シーグラス光りかがやく海の中　宝石みたいな自然の力

■どんな自然の力？

⇦

シーグラス光りかがやく海の中　宝石みたい波にもまれて

⑧ 一回目班のみんなで仲良くし　おいしくできたきずなのカレー

■どんなふうにして作ったの？　いつのご飯？　班の人は何人？

どんなカレー？

⇐

まき燃やし夕食作り五人して　おいしくできたとろとろカレー

⑨ 舞い上がる炎見ながら円になる　心を一つにみんなで踊る

■何を踊ったの？　どんなふうにして？

⇐

舞い上がる炎見ながら円になる　肩に手をかけジェンカを踊る

⑩ キラキラとプラネタリウムかがやいて　宇宙に行った感覚だった

■宇宙に行った感覚を例えてみると？

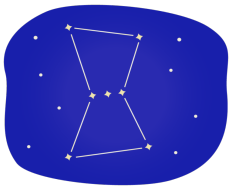
⇐

キラキラとプラネタリウムかがやいて　宇宙に行った飛行士気分

《中学一年生》

⑪ 雪の道夜空に輝くオリオン座　見えた瞬間みんなほほえむ

■みんなって何人？　オリオンはどんなふうに輝いていたの？



⇐

雪の道四人で帰る夜空には　オリオン星座白く輝く

⑫ 白熱す金か銀かの戦いに手に汗にぎり課題手つかず

■ 慣用句以外の言葉を！

⇦

白熱する金か銀かの戦いに　課題放って見入る五輪を

⑬ みんなと同じ気持ちを楽器のせ　音がはずむユーフォニウム

■ 全体の調べを整えよう！　四句五句が六音

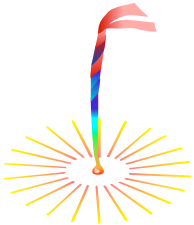
⇦

同じ思い楽器にのせて奏でれば　ユーフォニウムの音色がはずむ

⑭ パチパチと手持ち花火がカラフルな　心のようにはじける火花

■ 三句からの意味がすっきりと分かるように！

はじけるのは何？



⇦

パチパチと手持ち花火がカラフルな　火花をはじく心もはじく

⑮ 色変わる手持ち花火がはじけちる　家族で見つめる線香花火

■「花火」が重なっている。線香花火の何を見つめていたの？

⇦

色変わる手持ち花火がはじけちる　家族で見つめる火花のゆくえ

（5）あなたならどうする？

・①②小池光の歌集『思川の岸辺』より
下の句（七・七）を入れてみよう。

③橘曙覧に習ってみよう。

①ベランダに洗濯物を干す夜あり
「遠田のかはづ」の

うたが聞こえる

②わが食の嗜好聞くひとあればいふ
骨の髄まで

マヨネーズ嫌ひ

③たのしみは

ご清聴、
ありがとう
ございました。

山川ひろみ